

ストーンサークルはどの地方に多いか?

ストーンサークルは、縄文時代後期に北日本で盛んに作られます。日本列島全体で見ると、関東地方などでは縄文時代中期の終わりごろ(今からおよそ4500年ぐらい前)に作られたストーンサークルが見つかっています。また、この時期には囲炉裏の周りに石を敷きつめた住居なども盛んに作られていて、このような石を使うことが、やがて北日本にも伝わって、ストーンサークルが作られるようになったという考えもあります。

このページの地図には、東日本でストーンサークルやその仲間が見つかっている主な地域を示しました。



地図を見ると、縄文時代後期の北日本では、30mを超えるような大形で環状になるものは秋田県北部から青森県、北海道の西南部で見つかっています。それから外れるところ、例えば岩手県の湯舟沢環状列石では石を弧状と直線状に組み合わせるように並べています。

それでは、なぜこの地域で同じようなストーンサークルが作られたのでしょうか？その理由ははっきりとはしていませんが、以前からこれらの地域は、北海道・東北地方のうちでも特に密接な関係があった、言いかえれば、人びとやモノの行き来が盛んに行われた地域であったと考えられているのです。

みなさんも、この地図を見ながら、ストーンサークルを作った人たちがどのような交流をしていたか考えてみてはいかがでしょう。

ストーンサークルが 見つかっている場所

忍路環状列石

オクシベツ川遺跡

湯舟沢環状列石

- …大きな環状のもの(直径30m以上)がある遺跡
- …小さな環状のもの(直径10m以下)がある遺跡
- ▲…きれいな環状にならないものがある遺跡

ピンク……縄文時代中期のおわりころ
(4500年～4000年前)

オレンジ……縄文時代後期の前半ころ
(4000年～3500年前)

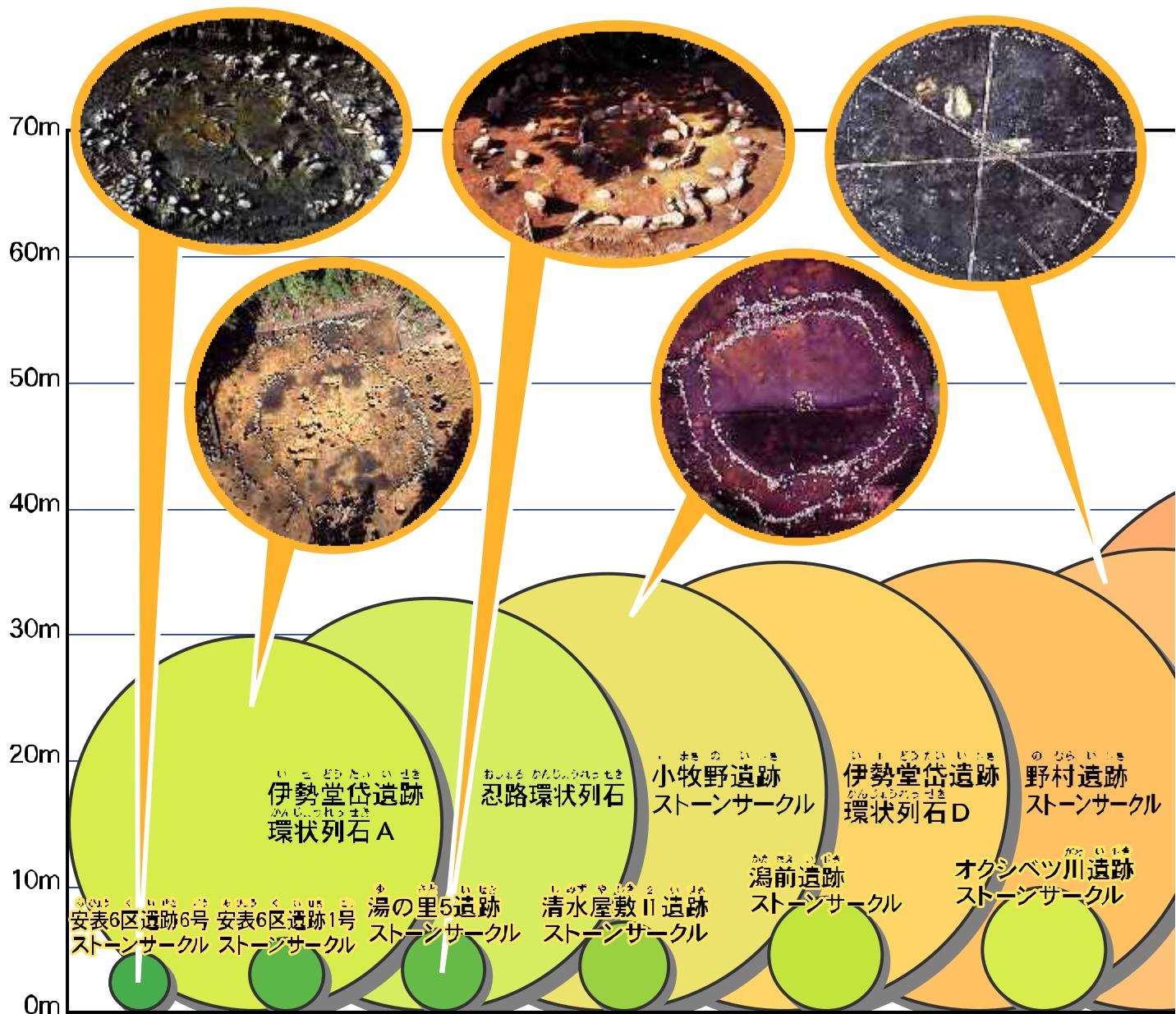
ブルー……縄文時代後期の後半ごろ
(3500年～3000年前)

ストーンサークルの大きさ比べ

各地のストーンサークルは、詳しく見ると形はさまざまですが、大きさも直徑が50mを超えるような大きなものから10m足らずの小さなものまでいろいろ見つかっています。ここでは、各地の代表的なストーンサークルの大きさを比べてみましょう。

ストーンサークルの大きさを見ると、鷲ノ木遺跡、野村遺跡、伊勢堂岱遺跡の環状列石D、小牧野遺跡のそれぞれのストーンサークルでは、一番外側の部分の直徑が35~37m前後となっています。今のところ最も大きなストーンサークルは、直徑52mの万座環状列石です。

ストーンサークルの大きさ



直径が30mを超えるような大きなストーンサークルは、数百個から数千個もの石が並べられています。例えば、大湯環状列石の万座ストーンサークルでは、全体で5000個ほどの石が使われていて、中には1個が200kgを越えるような巨大な石もあります。

また、北日本各地で見つかっているストーンサークルの形がよく似ているので、ストーンサークルを作るための共通した設計図のようなものがあったのではと考える人もいます。



とても大きなものと少し小さめのもの、
そしてすごく小さなものがあるなあ



鷺ノ木遺跡
ストーンサークル

大湯環状列石
野中堂環状列石

伊勢堂岱遺跡
環状列石 C

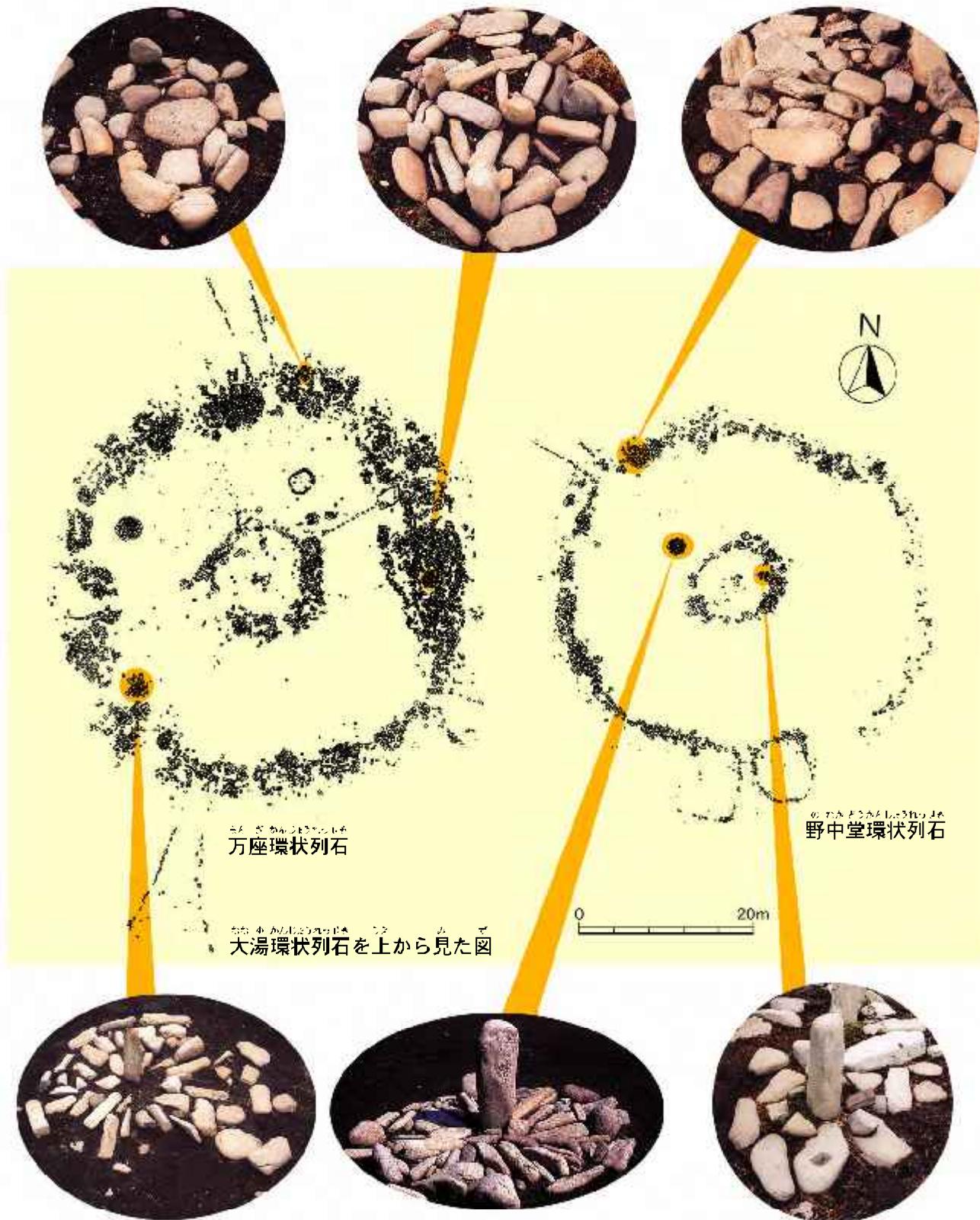
太師森遺跡
ストーンサークル

牛石遺跡
ストーンサークル

大湯環状列石
万座環状列石

いし なら かた つく かた ストーンサークルの石の並べ方、作り方 ①

ストーンサークルは全体の形だけではなく、よく見ると部分部分の石の組み方にさまざまな形のあることに気づきます。ここでは石の並べ方やストーンサークル全体の作り方について、もう少し詳しく見てみましょう。



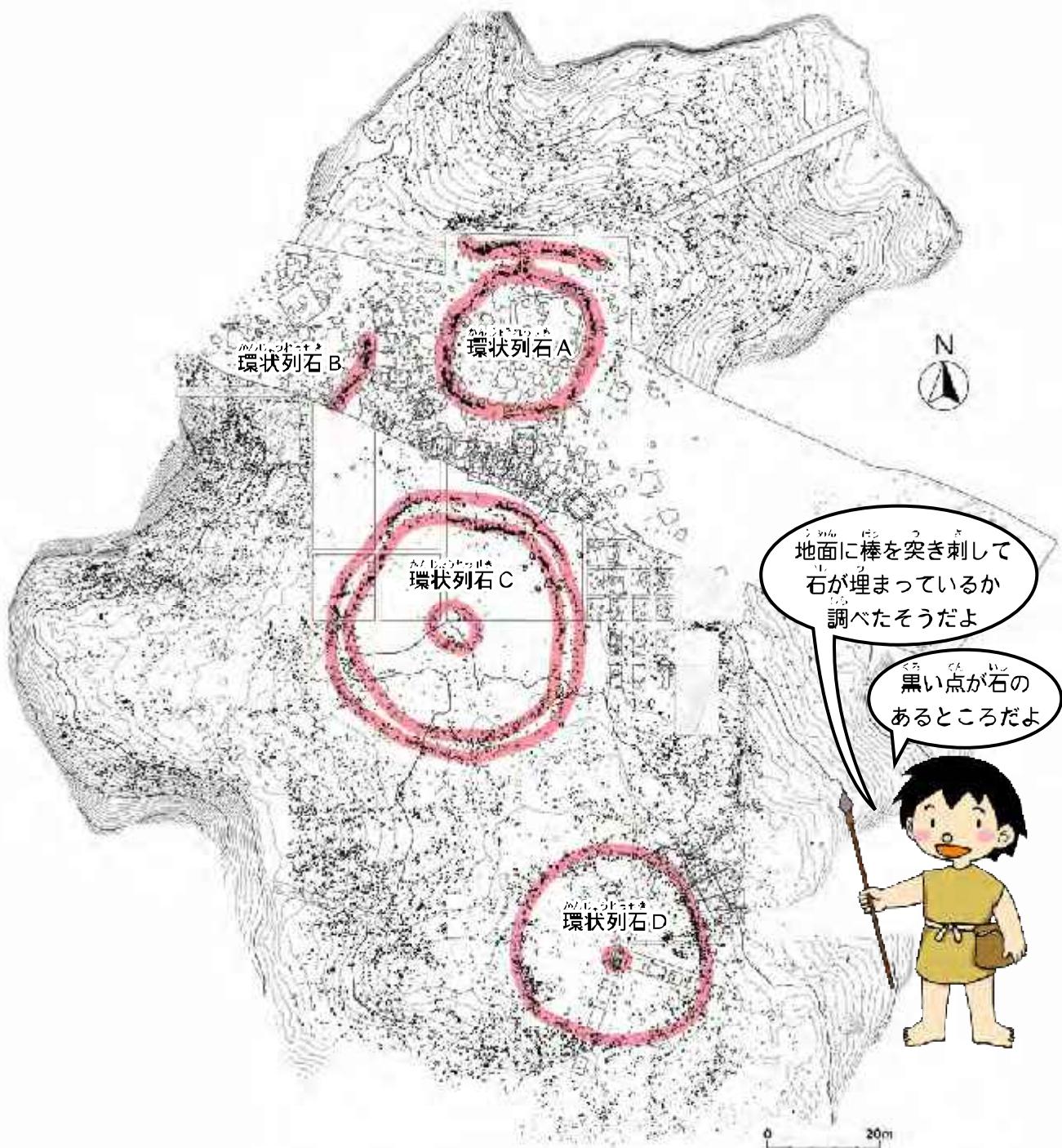
左の図は、大湯環状列石の万座と野中堂の2つのストーンサークルを、それぞれ真上から見た様子を描いた実測図です。いずれも二重の石の環となっていますが、さらにこれらの環をよく見ると、いくつかの石組みに分けることができます。言いかえれば、ストーンサークルはたくさんの石組みが集まって、全体で環になっているのです。また、二重の環の間などには、まるで日時計のような独立した石組みもあります。一部の石組みの下を調査したところ、多くのもので墓穴と考えられる穴があったことから、これらの石組みは墓穴の上の墓石のようなものではなかったかと考えられています。

青森市小牧野遺跡のストーンサークルは、全体が石垣のように連続して巡っています。小牧野遺跡では、ストーンサークルを作る時に、土地ができるだけ平らになるように、高い部分を削って低い方に削った土を盛るような土木工事をしています。そして、土地を削って斜めになってしまった縁の部分にまるで石垣のように石を並べています。縦に並べた河原石の間に横長に河原石を積み上げる特徴的な並べ方です。この石の組み方は、この遺跡の名前をとって「小牧野式」と呼ばれています。似た石の組み方は、伊勢堂岱遺跡でも見つかっています。



いし なら かた つく かた ストーンサークルの石の並べ方、作り方②

伊勢堂岱遺跡では、全部で4つのストーンサークルが見つかっています。小牧野式の石組みがあるストーンサークルのほかに、細長い楕円形のような石組みが並んで環になるストーンサークルなどもあります。その理由は分かりませんが、同じ遺跡の中でもいろいろな石の並べ方、ストーンサークルの作り方があったことが分かります。



伊勢堂岱遺跡のストーンサークルを上から見た図



よく見ると
形が少しずつ
違うなあ

作った人が
違うのかなあ?

